

令和7年度卒業式・修了式を 挙りました。

令和8年3月6日（金）に令和7年度卒業式・修了式を挙
し、学部生90名、大学院生22名が旅立ちの日を迎えました。
様々な課題や研究、実習を乗り越え、この日を迎えられた
卒業生・修了生の皆さん、おめでとうございます🌸



---保健医療学部卒業生・保健医療学研究科修了生より-----

- Q1. 本学の学生生活はどうでしたか？
- Q2. 国家試験対策をどのように進めましたか？
- Q3. 本学への進学を考えている方へのメッセージをお願いします！

看護学科

卒業生 南部聖来

- A1. 学生生活で良かったのは、4年間でさまざまな病院や施設で実習を経験できたことや、地域健康サポーター実習を通して地域住民と直接関わる機会があったことです。現場ごとに異なる特色や看護のあり方に触れ、学内だけでは得られない多くの気づきや新たな視点を学ぶことができました。また、忙しい中でも友人との時間や趣味の時間を大切に、気持ちを切り替えながら前向きに学ぶことを心がけました。その積み重ねが、充実した4年間につながったと感じています。
- A2. 4年生の実習後から本格的に国試勉強を開始し、それまではアプリを活用して少しずつ学習を進めていました。過去問を解きながら、不正解の選択肢の内容まで理解できるように、テキストや動画を活用して対策しました。また、繰り返し解くことで自分の苦手な部分が明確になるため、その部分を中心に付箋ノートを作成したり、白紙に覚えたことを書き出したりして知識の定着を図りました。長時間取り組むことも大切だと思いますが、そのなかで集中して効率的に取り組めるよう、自分に合った勉強法を見つけることが重要だと感じました。
- A3. 実習や課題、試験など、進学にあたってさまざまな不安を感じている方も多いと思います。実際には大変なことや思うようにいかないこともあるかもしれませんが、本学には同じ目標に向かって頑張る仲間や、親身になって支えてくださる先生方がいます。そして、一つひとつ乗り越えていくなかで、自分自身の成長を実感できるはずですよ。皆さんがそれぞれの夢に向かって前進できることを、心から応援しています。



臨床検査学科



卒業生 金地葵生

- A1. 臨床検査学科は1学年20名と少人数で、担任・副担任の先生との面談があり、分からないこともすぐに質問できるなど、先生との距離の近さが良かったです。また、国家試験に向けて、友人と毎日勉強したり、分からないことを話し合ったりしたことや、日当たりのよい中庭のベンチで友人と教科書を読んだことなどが楽しかったです。学校生活では、テスト前だけでなく、その日に学んだ内容をその日のうちに復習できるよう、毎日勉強することを心がけていました。
- A2. 国家試験の勉強は、参考書を中心に進め、過去問も繰り返し解きました。一人で勉強するのではなく、毎日友人と学校で勉強していました。得意科目を教え合ったり、分からないことはその場で質問し、一緒に話し合っ解決するようにしていました。模試の見直しでは、正解した問題も含めて選択肢を1つずつ確認し、確実に正解できるようにしました。間違えた問題では、不足している知識を補い合ったり、考え方や覚え方を共有したりするなど、助け合いながら勉強しました。
- A3. 勉強やレポート、実習など大変なこともありますが、友人と一緒に取り組むと楽しく進められます。本学では、分からないことも相談しやすい環境があり、日々の努力を積み重ねれば確実に成長できます。人数も少ないため、みんなで仲良く協力しながら学べるのも魅力です。皆さんのこれまでの学びや努力が実を結び、充実した学生生活になることを願っています。

大学院 博士前期課程 看護学専攻 実践者養成コース(公衆衛生看護学)



修了生 藤原 琴美

- A1. 授業や実習では地域や対象者の生活背景を意識し、学んだことを実践の場でどう活かせるかを考えながら取り組みました。研究では文献を読み進めながら課題への理解を深め、仲間と支え合いながら充実した学生生活を送ることができました。
- A2. 国家試験対策は、授業や実習での学びを大切にしながら、少しずつ復習を重ねました。過去問題を解きながら理解を確認し、分からない点は友人と話し合いながら整理しました。研究と両立しつつ、無理のないペースで進めました。
- A3. 本学の大学院では、2年間を通して保健師として必要な知識や実践力に加え、研究を通して物事を深く考える力も身につけることができます。忙しい毎日ではありますが、仲間と共に学ぶ時間は大きな支えになります。ぜひ前向きに挑戦してみてください。

大学院 博士前期課程 看護学専攻 実践者養成コース(助産学)



修了生 佐々木智美

- A1. 日々、助産実践の向上を目標に、授業や実習での学びをその日のうちに振り返ることを大切にしていました。疑問は残さず文献や教科書で確認し、根拠をもって理解を深め、次の実践につなげるよう努めました。
- A2. 実習での経験と関連づけながら理解を深めることを意識して学習しました。過去問題を繰り返し解き、間違えた分野は教科書や参考書で根拠を確認しました。知識の定着を図るため、自分の言葉でまとめ直すことも行いました。
- A3. 本学では、助産師と保健師を目指す学生が共に学ぶ環境があり、地域に根ざした母子保健の視点を養うことができます。先生方との距離も近く、演習や実習で丁寧な指導を受けながら、安全で確かな知識と技術を身につけられます。

- Q1. 大学院進学理由は？
Q2. 大学院進学を検討されている方へのメッセージをお願いします！
Q3. 修士・博士論文のテーマ



大学院 博士後期課程 看護学専攻 研究コース

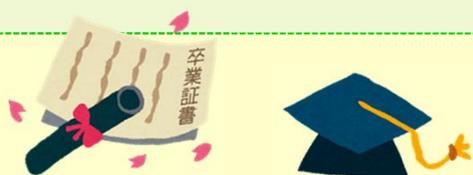
修了生 辻川季巳栄

- A1. 看護師として対象者にとって本当に必要なケアとは何かを考える中で、看護師自身も支援を必要とする立場になり得ると感じました。困難な体験をしても看護師として働き続け、その経験を活かせる社会の実現を目指し、進学を決意しました。
- A2. これまでの看護経験や人生経験を大切にしながら、自分らしい研究に挑戦できる環境です。先生方が一人ひとりに寄り添い成長を支えてくださり、研究者としてだけでなく、一人の人として、さらに成長できます。これまでの看護経験や人生経験を活かし、自分らしい研究に挑戦できる環境です。
- A3. 闘病看護師(自分・家族・両方の闘病)が脆弱性を防御しつつ、当事者体験によって得た能力を発揮するためのストラテジーの開発

大学院 博士前期課程 臨床検査学専攻

修了生 仲山 佳歩

- A1. 私は、学部4年次の卒業研究の経験から、大学院で研究を継続することで、課題を見つけて解決する力や多視点から物事を見る姿勢などを身につけることができると考え、大学院進学を決めました。大学院では、Fabry病で活性が低下する α -galactosidaseAという酵素に焦点を当て、病院で使用されている生化学自動分析装置を用いた新たな活性値の測定法について研究を行いました。
- A2. 本学では、研究以外にも授業等で多くの先生方と関わる機会があります。また、院生室では他の大学院生と顔を合わせる機会も多く、相談を聞いてもらったり、様々な分野・視点からの助言をいただいたりすることができます。大学院進学に少しでも興味がある人、悩みや不安事がある人はぜひ一度、身近な先生や大学院の先輩にお話ししてみてもいいのではないでしょうか。
- A3. 「Fabry病診断に有用な生化学自動分析装置による α -galactosidase活性測定法の検討」



卒業・修了 おめでとうございます❖
今後のご活躍をお祈りしています！

